

2026 年大学院入試問題（ドイツ文学専攻 博士前期／修士）外国語
解答例

I.

II.



III.

ジャン＝ポール・サルトルが「カフカの証言は、それがきわめて個別的であるがゆえに、いっそう普遍的である」と述べていることは、20 世紀におけるカフカ受容に見られる一つの重要な逆説を示している。その逆説は、文学と哲学とのあいだの接点をわれわれがいかに関理解するかという問題に対して、広範な含意をもっている。カフカ作品の哲学的受容に特徴的なのは、基礎づけを志向する近代的思考から継承されてきた普遍的概念——主体、思考、存在といった概念——から逃れようとする試みの文脈において、彼の作品が繰り返し呼び出されてきたという点である。

2026 年大学院入試問題（ドイツ文学専攻 博士前期／修士）外国語

I. II. III.

出題意図：

本問題は、ドイツ語および英語で書かれた学術的テキストを正確に読み取り、日本語として過不足なく全訳する能力を測定することを目的とする。ドイツ文学専攻における研究では、原語文献を精密に読解し、その内容を日本語で適切に把握・共有する能力が研究活動の基礎となることから、本問題は、その前提となる基礎的な外国語運用能力が備わっているかどうかを確認するために出題されている。

解答にあたっては、テキストの全体構造や文法関係を正確に理解し、語義・構文・文脈を踏まえたうえで、日本語として意味の通る自然な訳文を作成できているかを重視し、単語の機械的な置き換えや部分的な意識ではなく、原文の内容を忠実に再現した全訳が求められる。また、文学・思想・文化に関わる学術的テキストを対象とすることから、文脈に即した語彙選択や専門的概念の適切な訳出が、大学院レベルの研究に必要な基礎的能力として備わっているかを評価する。

2026 年大学院入試問題（ドイツ文学専攻 博士前期／修士）専門科目

I.

出題意図：

本問題は、ドイツ文学史上の重要概念である「ロマン主義」や「ロマンチック」という用語がどのように生まれ、いかなる意味変遷を遂げて現在に至るかを簡潔に記述したドイツ語の参考資料を読み、全訳ではなく自分の言葉で内容を説明することを主目的とする。これを、大学院ドイツ文学専攻での文学研究に必要な基礎的学術ドイツ語読解力、合理的記述力、文学史的基礎知識が基準に達しているか否かの判断材料とする。

評価基準：

1. 学術ドイツ語読解力

提示されたドイツ語テキストの内容を、全体として正確に把握しているか。語源的説明や概念史的説明の要点を取り違えることなく理解しているか。部分的な誤読や恣意的な解釈に陥っていないか。

2. 内容理解と要点把握

「ロマン主義」「ロマンチック」といった用語がどのような文脈で成立し、どのような意味変遷を遂げてきたのかについて、主要な論点を押さえて説明できているか。細部の羅列や逐語的翻訳に終始せず、テキスト全体の論旨を簡潔に再構成できているか。

3. 文学史的基礎知識の活用

語源史・文学史・美学史といった観点を踏まえ、当該概念をドイツ文学史の中に適切に位置づけているか。重大な年代的・概念的誤りがないか。

4. 記述の論理性・明確さ

自分の言葉によって、論理的に整った文章で説明しているか。記述が主観的・感想的にならず、学術的説明としての体裁を保っているか。指定された分量の中で、過不足なく記述できているか。

5. 大学院レベルとしての適切さ

ドイツ文学専攻の大学院での研究に必要な基礎的な読解力・記述力・文学史理解が備わっていると判断できるか。

II.

出題意図：

本設問では、ドイツ文学史に関する基礎的知識を前提としつつ、文学史的理解力・概念把握力・記述力を総合的に評価することを目的とする。

評価基準：

1. 文学史的・歴史的文脈の理解

設問に関連する文学的事象を、時代背景や文学史の流れの中で適切に位置づけて説明できているか。

2. 概念・テーマの的確な把握

設問で問われている概念について、その特徴や意義を的確に理解し、明晰に説明できているか。

3. 具体例の適切な提示

説明に際して、代表的な作家・作品・事例が適切に挙げられ、設問内容と無理なく結びつけられているか。

4. 因果関係・相互関係の理解

文学作品・形式・思想・社会的状況などの間にある関係性を的確に理解し、明晰に示しているか。

5. 記述の簡潔さと構合力

解答用紙 5～6 行という制限の中で要点を整理し、論点の明確な記述がなされているか。

6. 学術的記述としての適切さ

学術的文体が用いられ、主観的・感想的表現に偏っていないか。基本的な日本語表現に不備がないか。